

## 討論メモ

令和7年6月19日

森田晃司

1. 当月は、激変を続ける国内外の情勢に対しての日本政府の対応について考え

てみました。最初に下山さんから

トランプ関税に対する日本政府の対応、

コメの価格高騰と小泉新大臣の就任

の二点を中心に国内外の急激に変化している情勢とほとんど無策の政府の対応に

ついて紹介がありました。無策が続けば、コメの消滅にとどまらず、日本そのも

のが消滅しかねない危機をはらんでいるとの指摘がありました。

2. 続いて出席者7名による自由討論に移り、下記のような意見が出されました。

た。

- ・ コメの価格高騰の真因は何か・

- ・ 農水省や小泉大臣はJAや流通を悪者にしたがっているが、調査の結果、流通に

は問題は出てきていない。

- ・ コメは不足している、半世紀以上も続けている減反政策の悪の成果だ。

- ・ 安い備蓄米が出回り始めて、価格は三重構造といわれている。

- ・ 小泉はJAや中間業者を排除する意図のようだが、卸の持つ様々な機能が理解で

きていない。

- ・ 三次卸程度まで必要なのではないか。
- ・ 卸会社の利益率は低い、コメ流通のインフラとして機能している。
- ・ 古米は非常食であり、今までは飼料とされてきた。不味いとコメ離れが進むのではないか。
- ・ 小泉は米国の食糧メジャーとも関連あり、農協の株式会社化がミッションと言われている。農協関連の155兆円が狙いだ。
- ・ 戦前の農務省は権威のある役所だったが、今の農水省は弱い官庁だ。
- ・ 農水省の予算は最も削りやすいといわれている。
- ・ 国会議員も頼りない、食糧安全保障など考えてもいないようだ。
- ・ 早くも米国産のコメの輸入が計画されている。
- ・ 穀物自給率28%の日本がコメまで輸入に頼れば、食の自給は完全崩壊だ。
- ・ 棚田などの多い日本の農業は、米や豪とは単純比較できない。関税で農業は守るべきものだ。
- ・ 水路の確保などを通じて地方や村の協調をはぐくんできた日本文化の礎だ。
- ・ 日本のコメ技術は群を抜いていたが、永年の減反政策でブレーキがかかっていた。しかし、増産政策に踏み切れば、技術の改善にも拍車がかかる。
- ・ 政府はコメの輸出などを奨励しているが、ピンボケも甚だしい。
- ・ 農協をいじめても農業問題は改善できない。それでもマスコミは相変わらず小

泉人気をあおっている。

- ・ 関税交渉は、米国になめられっぱなしだ。
- ・ トヨタが対米輸出を完全に止めてみたらどんなことが起こるだろうか？米の消費者の反応を見てみたい。
- ・ 日本も関税を活用しながら、産業の国内回帰を目指すべきだ。
- ・ 日鉄が黄金株や巨額の投資を約束しての US スチール買収も疑問だ。
- ・ 制約を受けても米国の巨大市場に魅力があるのだろう。
- ・ トヨタなど日系企業からの要請もあるようだ。
- ・ トヨタの米国産者は品質が悪かったが、今は改善されたのだろうか。
- ・ 日本の大企業も海外でなく国内に投資してほしい。
- ・ 日本は後回しにされ、交渉は長引くのではないか。赤沢交渉大臣はいかにも頼りない。

以上